

歴史探訪

クラブ! 其の111

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

伊勢湾との関係を考える

今年3月、伊良湖と鳥羽を結ぶフェリーが廃止になるといって、渥美半島に住む私たちにとってショッキングなニュースが入りました。

その折に、これまでの歴史探訪クラブを読み返し、伊勢と渥美半島との関係を書いたものを探してみました。おさらいしてみると、次の点などについて書いています。

- ① 旧石器時代から縄文時代はじめの遺跡の多さ
- ② 縄文時代終わりの貝塚文化

③ 弥生時代の銅鐸をはじめとする青銅器文化

④ 古墳時代の近畿地方との共通性

⑤ 古墳時代からの古代の塩づくり

⑥ 中世の渥美窯の発展

⑦ 伊勢神宮の領地

⑧ 古代からの歌枕の地

これらから、渥美半島の歴史は、愛知県内でも際立った独特の文化であったことを再認識しました。

①、②については、このような古い時代においても渥美半島を通じて東の文化と西の文化の交流が行われ、石器を作る石が奈良から、縄文時代の終わりには赤色の水銀朱が伊勢から渥美半島にもたらされています。

③については、大陸からの大陸からの文化が東へ伝わる際に、海沿いに渥美半島を経由したことを示しています。

④についても、近畿だけでなく九州との交流を思わせるばかりでなく、大和朝廷の東への進出拠点として、伊勢湾が大事な場所であったことが想像されます。

⑤については、海人としての渥美半島の人たちの存在や

◀伊良湖岬から鳥羽方面を望む

海洋資源が、奈良の都にも送られていることがわかります。⑥、⑦は伊勢神宮の力を背景に、その技術、流通が全国規模で発展した証です。また、伊勢湾を中心に発展した海上交通は、日本の経済に及ぼした影響は大きく、渥美窯の製品を全国的に流通させた原動力ともなりました。

⑧は万葉集には「伊勢国伊良虞嶋」とあることから、奈良の都の人にとって、伊勢も渥美半島も同じ範囲内と捉えていたことを示しています。

このように、渥美半島の文化・経済は、伊勢地方と密接な関係がありました。私たちが思っている以上に、この二つの地域を含む伊勢湾周辺は日本の歴史的に見ても特別な場所であったのは間違いありません。

その象徴が伊勢神宮の存在です。同時に、私たちの住む渥美半島が、伊勢湾という海に影響を受け、東西の文化を巧みに受容し、それらを発信していたのです。そして、これら独自の文化を育んだのは伊勢湾

の存在にほかなりません。本来、海は交通を遮断させるものではなく、すべての陸地と接しているという無限の可能性を秘めています。現在のような車社会では、車両を載せる航路が絶たれるということは、海が陸路と遮断された空間となるのです。

今回のニュースは、1万年あまりも続いた伊勢地方との関係が途切れてしまうと、日本文化の大動脈が途切れると言っても過言ではありません。昭和39年11月から、慣れ親しんだフェリーがなくなるといって、今一度その関係を見直し、その存在の意義を考える必要があるでしょう。(増山)

※4月15号の1行目の「元和」は「天和」、45行目の藩主の「名」は「命」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

今月の「表紙」
▼アジサイの花びらに見える部分は、実はガクだということをご存じですか？これは装飾花と呼ばれ、本来の花は中心部にあります。アジサイの花言葉「移り気」はよく知られていますが、このほかにも「元氣な女性」などがあります。私もあやかっつて、変化を楽しめるくらいにならねば。(O)

【表紙の写真】アジサイの出荷風景(小塩津町)



広報 **Tahara** たはら
編集・発行 / 田原市役所政策推進部広報秘書課
電話 / 0531-22-1111 (代表)
Eメール / koho@city.tahara.aichi.jp
No.668 平成22年6月15日号

本誌は再生紙を使用しています。